

植物多様性センターの「マメ科のひっつき虫」

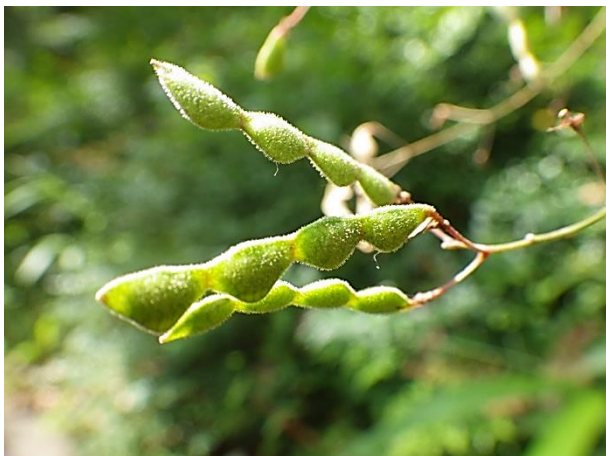
秋はひっつき虫の季節です。「ひっつき虫」は、動物の体にくっついて種子散布を行う植物の種子や果実の愛称です。その代表がマメ科のヌスビトハギです。ヌスビトハギは、表面に先端がフック状に曲がった毛のついた節果をつけます。熟すと節の部分でちぎれて、より広くたくさんの場所に種子を散布します。学習園では、ほかに外来種のアレチヌスビトハギ、暗い林縁に多いフジカンゾウの合計3種が観察できます。いずれも強力なひっつき虫ですので、観察の際はご用心ください。



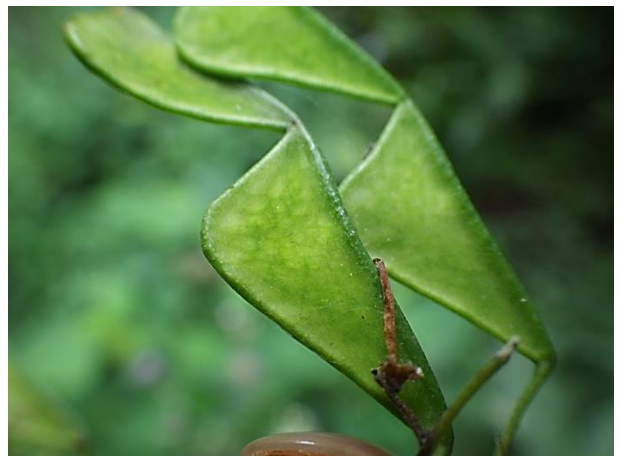
ヌスビトハギ: 盗人の足袋の先やサングラスとも称される節果



ヌスビトハギの表面: マジックテープのような微細な白い毛



アレチヌスビトハギ: ヌスビトハギとは異なり、4~6節からなる



フジカンゾウ: 節果は2個で大きく、直線的な不等辺三角形